

【社会変動に関する諸学説】

A. コント (1798-1857) ※社会学の父とされ、『社会学』という用語の提唱者。

↓彼は

社会は、

静 (秩序) ⇒ 動 (発展・進歩) ⇒ 静 (秩序) という流れで変化するとし、社会学を

◎社会静学 (社会の諸部分の相互作用・秩序を研究) と

◎社会動学 (社会の歴史的発展を研究) に区分した。

↓その上で、

社会の歴史的発展につき、

人間の精神の進化に応じて3段階に発展していくという (観念的因子を重視)

3段階の法則を唱えた。

↓すなわち、

人間の精神は

神への信仰 → 形而上学的 (社会の真理を探究 = 哲学) → 実証的段階へと発展する。

↓それに伴い、

社会は

軍事社会 → 法律社会 → 産業社会へと発展する。

(神政) (王政) (共和制)

※コント自身も、形而上学的方法には批判的で、

経験的事実を観察 ⇒ 法則を抽出する実証主義の立場をとった。

【国家一般 H20】 ×

A. コントは、三段階の法則によって、人類の社会が軍事的段階、商業的段階、産業的段階を経て、暴力や投機的な暴利といった非合理的な要素に依存した状態から、計画的な産業の発展を中心とした合理的な状態へと進むことを予測した。

【特別区 H20】 ○

コントは、人間の精神が神学的、形而上学的、実証的と3段階に進歩するのに対応して、社会は軍事的段階から法律的段階を経て産業的段階へと発展するとした。

【特別区 H23】 ×

コントは、人間社会の発展は人間の精神の進化に見合うものとし、精神の神学的段階に対応するのは軍事的社会であり、形而上学的段階には産業的社会が対応し、実証的段階に対応するのが法律的社会であるとした。

H. スпенサー (1820 - 1903)

↓彼は

ダーウィンの生物進化論の発想をもとに社会の進化を考えた。

↓すなわち、
生物⇒進化する。

↓そして
社会は生物と同様に有機体である (=社会有機体説)。

↓そのため、
人間社会も⇒絶えず進化していく。

↓このように
社会の進化を生物の進化との類推 (アナロジー) で捉え、
社会進化論の立場をとった。(※『適者生存』という言葉で有名)

↓その上で、

生物の世界で、
単細胞生物が進化して→多細胞生物になるのと同様に、
社会も『軍事型社会 (単純) →産業型社会 (複雑)』へと段階的に進化するとした。

↓

軍事型社会 (中央集権的な社会)

→緊密で同質的な人々が強制的協働で結びついた『単純』な社会

産業型社会 (個人が自由に産業に従事できる社会)

→不緊密で異質な人々が自発的協働で結びついた『複雑』な社会

【国家一般 H23】 ×

H. スペンサーは、人間社会は生物と同様に絶えず進化していくという社会進化論を批判した上で、人間社会は全人格的でパーソナルな結びつきを重視する社会から、利害関係に基づく結合を重視する社会へ移行するとした。

【特別区 H20】 ○

スペンサーは、社会は強制的協働に基づく軍事型社会から自発的協働に基づく産業型社会へ進化するとした。

【特別区 H23】 ×

スペンサーは、社会が、相対的に不確定で不緊密な異質性から確定的で緊密な同質性へと進化する方向は、そのまま単純社会から複合社会へ、軍事型社会から産業型社会への社会進化のコースにほかならないとした。